

平成 30 年 6 月 8 日現在

機関番号：22701

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25293473

研究課題名(和文) 都市部における一人暮らし高齢者の社会的孤立予防プログラムの標準化と評価指標の確立

研究課題名(英文) Development of a standardized program and evaluation tool for preventing social isolation among community-dwelling older people in an urban community

研究代表者

田高 悦子 (Tadaka, Etsuko)

横浜市立大学・医学部・教授

研究者番号：30333727

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は独居高齢者の社会的孤立予防プログラムならびにCommunity Commitment Scale(地域志向性尺度)およびSelf-Efficacy Scale for Preventing and Alleviating Social Isolation among the Community-dwelling elderly people(地域見守り効力感尺度)(日英版)を開発し、評価したものである。これらは今後の社会実装を経て独居高齢者個人の尊厳のみならず、地域社会の安寧に貢献するだろう。

研究成果の概要(英文)：Among older people in developed countries, social isolation leading to solitary death has become a public health issue of vital importance. Such isolation could be prevented by monitoring at-risk individuals at the neighborhood level and by implementing supportive networks at the community level. However, a means of measuring community power in these measures and standardized program have not been established. In this project, we have developed the two measures with adequate reliability and validity; the Community Commitment Scale (CCS) and the Self-Efficacy Scale for Preventing and Alleviating Social Isolation among the Community-dwelling elderly people (SES-PS; mimamori scale) and standardized community-based and community oriented program for community members. These scales and program are potentially useful for promoting health policies, practices, and interventions within communities not only for older people but also in public well-being.

研究分野：看護学・公衆衛生学

キーワード：地域・コミュニティ プログラム 開発 評価 介入研究

1. 研究開始当初の背景

我が国の一人暮らし高齢者数は一貫した増加を続けている。この一人暮らし高齢者の増加は子らと同居しないライフスタイルが浸透し、非婚率や離婚率が上昇する大都市圏で顕著である。一人暮らし高齢者については、緊急時や災害等への対応が脆弱であること等、地域保健上、着眼すべき population であることはすでに知られているが、今日、深刻で重大な社会問題となりつつある課題は、家族や近隣、地域（コミュニティ）とほとんど接触や交流がない、「社会的孤立 (social isolation)」である。

2. 研究の目的

本研究は、都市部における一人暮らし高齢者の社会的孤立予防プログラムを標準化するとともに、その評価指標を確立することである。

3. 研究の方法

研究は、Phase (25~26年度)、Phase (27~29年度)からなる。

Phase では評価指標について、Phase ではプログラムについて検証し、総括した。

4. 研究成果

H25年度

都市部の高齢者ならびに地域住民を対象に2種の評価指標 Community Commitment Scale(地域志向性尺度)及び Self-Efficacy Scale for Preventing and Alleviating Social Isolation among the Community-dwelling elderly people(地域見守り効力感尺度)(日本語版・英語版)を開発した。

H26年度

都市部の高齢者(一人暮らし高齢者含む)保健医療福祉専門家および地域住民を対象に量的調査ならびに質的調査を実施し、2種の評価指標における有用性および使用性を検証した。また2種の評価指標に関連する諸要因を検討した。

H27年度

都市部の虚弱高齢者および同区の小学校児童を対象に世代間交流プログラムを開発し、その有効性について2種の評価指標等を用いて検証し、虚弱高齢者において地域見守り自己効力感、地域コミットメントの向上等を観察した。

H28~29年度

国内外の最新文献及び先駆的フィールドをレビューし、一人暮らし高齢者の社会的孤立予防プログラムの標準化に向けた定義、目的、対象、枠組み、体制、有効性等について記述のうえ、プログラムの標準化にむけた理論を総括した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 16 件)

田高 悦子、河野 あゆみ、高齢者の社会的孤立における性差とアプローチ、保健師ジャーナル、査読有、73(5)、2017、384-388

田高 悦子、白谷 佳恵、伊藤 絵梨子、大河内 彩子、有本 梓、河野 あゆみ、金谷 志子、地域・コミュニティレベルにおける高齢者の社会的孤立予防に向けた見守り活動 - 実証的研究と先駆的実践からの示唆 -、保健師ジャーナル、査読有、73(10)、2017、836-844

田高 悦子、介護予防とセーフティマネジメント - 独居高齢者の社会的孤立予防に向けた地域のあり方 -、日本在宅ケア学会誌、査読無、21(2)、2017、1-3

宮下 智葉、田高 悦子、伊藤 絵梨子、有本 梓、大河内 彩子、白谷 佳恵、地域在住要支援高齢者における社会活動の実態と関連する要因の検討、日本地域看護学会誌、査読有、20(2)、2017、12-19

Tadaka E、Kono A、Ito E、Kanaya Y、Dai Y、Imamatsu Y and Itoi W、Development of a community's self-efficacy scale for preventing social isolation among community-dwelling older people (Mimamori Scale)、BMC Public Health、査読有、16、2016
DOI: 10.1186/s12889-016-3857-4.

瀬戸 佳苗、田高 悦子、有本 梓、地域在住自立高齢者におけるフレイルの実態と関連要因、日本地域看護学会誌、査読有、19(2)、2016、15-23

Shioda A、Tadaka E、Okochi A、Loneliness and related factors among people with schizophrenia in Japan: a cross sectional study、Journal of Psychiatric and Mental Health Nursing、査読有、23(6-7)、2016、399-408
DOI: 10.1111/jpm.12318

Shioda A、Tadaka E、Okochi A、Reliability and validity of the Japanese version of the Community Integration Measure for community-dwelling people with schizophrenia、International Journal of Mental Health Systems、査読有、11:29、2017
DOI: 10.1186/s13033-017-0138-2

井上 彩乃、田高 悦子、白谷 佳恵、有本 梓、伊藤 絵梨子、大河内 彩子、地域在住高齢者における社会活動尺度の開発と信頼性・妥当性の検討、日本地域看護学会誌、査読有、19(2)、2016、4-11

赤塚 永貴、有本 梓、田高 悦子、臺 有桂、伊藤 絵梨子、白谷 佳恵、大河内 彩子、都市部地域在住高齢者の主観的健康感に関連する要因の性差に関する比較、日本地域看護学会誌、査読有、19(2)、2016、12-21

紅林 奈津美、田高 悦子、有本 梓、都市部在住高齢者の社会関連性の実態と関連要因の検討、厚生指標、査読有、63(6)、2016、1-7

田高 悦子、田口 理恵、有本 梓、臺 有桂、今松 友紀、鹿瀬島 岳彦、塩田 藍、セーフコミュニティに向けた基礎的研究 - 都市在住高齢者における傷害予期不安と関連要因の検討 -、厚生指標、査読有、62(8)、2015、22 - 28

鹿瀬島 岳彦、田高 悦子、田口 理恵、有本 梓、臺 有桂、今松 友紀、健康長寿にむけた大都市在住自立高齢者における主観的健康感と関連要因の検討、日本地域看護学会誌、査読有、17(3)、2015、1 - 6

田高 悦子、認知症の一次予防に向けた健康づくりのアプローチ、健康保険、査読有、69(4)、2015、20 - 23

田高 悦子、更なる健康長寿をめざして超高齢社会における老年学の役割 健康長寿を支えるケアのあり方 男性 独居高齢者の生活習慣と社会的交流をめぐって -、日本老年医学会雑誌、査読有、51(1)、2014、49-52

田高 悦子、河野 あゆみ、国井 由生子、岡本 双美子、山本 則子、大都市に住む一人暮らし男性高齢者の地域交流の確立に向けた質的帰納的研究、日本地域看護学会誌、査読有、15(3)、2013、4-11

[学会発表](計 13 件)

Tadaka E, Shiratani K, Ito E, Arimoto A, Okochi A, Inoue A, Development of the Social Activities Scale for Community-dwelling Elderly People, The3rd KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing, 2016年07月02日~2016年07月03日, Busan (Korea)

田高 悦子、伊藤 絵梨子、白谷 佳恵、有本 梓、大河内 彩子、大都市地域高齢者の社会的孤立とその関連要因における性差の検討：近隣関係と地域環境、第75回日本公衆衛生学会学術集会、2016年10月26日~2016年10月28日、グランフロント大阪(大阪)

宮下 智葉、田高 悦子、伊藤 絵梨子、有本 梓、大河内 彩子、白谷 佳恵、地域在住高齢者の社会活動の実態と関連要因の検討、日本地域看護学会第19回学術集会、2016年08月26日~2016年08月27日、自治医科大学看護学部(栃木)

平田 優奈、田高 悦子、白谷 佳恵、大河内 彩子、有本 梓、伊藤 絵梨子、沖縄県健康長寿村における一人暮らしの女性高齢者の社会的交流の意味に関する質的研究、日本地域看護学会第19回学術集会、2016年08月26日~2016年08月27日、自治医科大学看護学部(栃木)

Tadaka E, Ito E, Arimoto A, Okochi A, Shiratani K, Dai Y, The self-efficacy for preventing social isolation among community-dwelling elders and related factors of general citizen in Japan, 6th ICCHNR Community Nursing Research Conference (国際学会), 2015年08月19日~2015年08月21日, ソウル(韓国)

赤塚 永貴、有本 梓、田高 悦子、伊藤 絵梨子、白谷 佳恵、大河内 彩子、臺 有桂、都市部地域在住高齢者における男女別にみた主観的健康感の関連要因の検討、第18回日本地域看護学会学術集会、2015年08月01日~2015年08月02日、パシフィコ横浜(神奈川)

瀬戸 佳苗、田高 悦子、有本 梓、地域在住高齢者におけるフレイルへの介入と効果に関する文献レビュー、第18回日本地域看護学会学術集会、2015年08月01日~2015年08月02日、パシフィコ横浜(神奈川)

井上 彩乃、田高 悦子、白谷 佳恵、有本 梓、大河内 彩子、伊藤 絵梨子、臺 有桂、都市部在住高齢者における高齢者の社会参加活動の尺度開発と関連要因の検討、第18回日本地域看護学会学術集会、2015年08月01日~2015年08月02日、パシフィコ横浜(神奈川)

田高 悦子、伊藤 絵梨子、白谷 佳恵、有本 梓、大河内 彩子、塩田 藍、地域保健活動における MCI 予防に向けた語彙の流暢性の有用性、第 74 回日本公衆衛生学会総会、2015 年 11 月 04 日～ 2015 年 11 月 06 日、長崎ブリックホール（長崎）

紅林 奈津美、田高 悦子、有本 梓、都市部在住自立高齢者における社会関連性と個人特性・環境特性の関連、第 73 回日本公衆衛生学会総会、2014 年 11 月 05 日～ 2014 年 11 月 07 日、栃木県総合文化センター（栃木）

Etsuko Tadaka, Ayumi Kono, Yukiko Kanaya, Yuki Imamatsu, Yuka Dai, Waka Itoi, Scale development of Self-Efficacy Scale for Preventing and Alleviating Social Isolation among the community-dwelling elderly people (SES-PAS): community volunteer, 66th Annual Scientific Meeting GSA, 2013 年 11 月 20 日～ 2013 年 11 月 24 日, Sheraton New Orleans・New Orleans Marriott (USA)

田高 悦子、田口（袴田）理恵、有本 梓、臺 有桂、今松友紀、鹿瀬島岳彦、塩田藍、都市部におけるセーフコミュニティ推進に向けた基礎的研究 第 1 報 - 高齢者の傷害とリスク要因 -、第 16 回日本地域看護学会学術集会、2013 年 08 月 03 日～ 2013 年 08 月 04 日、ホテルクレメント徳島（徳島）

田高 悦子、更なる健康長寿をめざして超高齢社会における老年学の役割 健康長寿を支えるケアのあり方 男性 独居高齢者の生活習慣と社会的交流をめぐって、第 55 回日本老年医学会学術集会、2013 年 06 月 04 日～ 2013 年 06 月 06 日、大阪国際会議場（大阪）

〔図書〕

該当なし

〔産業財産権〕

該当なし

〔その他〕

http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~yuc_uhn/wp/（横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野ホームページ）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田高 悦子 (TADAKA, Etsuko)
横浜市立大学・医学部・教授

研究者番号：30333727

(2) 研究分担者

河野 あゆみ (KONO, Ayumi)
大阪市立大学・看護学研究科・教授
研究者番号：00313255

金谷 志子 (KANAYA, Yukiko)
大阪市立大学・看護学研究科・講師
研究者番号：00336611

有本 梓 (ARIMOTO, Azusa)
横浜市立大学・医学部・准教授
研究者番号：90451765

大河内 彩子 (井出彩子) (OKOCHI, Ayako (IDE, Ayako))
横浜市立大学・医学部・准教授
研究者番号：70533074

臺 有桂 (DAI, Yuka)
横浜市立大学・医学部・准教授
研究者番号：00341876

白谷 佳恵 (SHIRATANI, Kae)
横浜市立大学・医学部・助教
研究者番号：40724943

伊藤 絵梨子 (宮崎絵梨子) (ITO, Eriko)
横浜市立大学・医学部・助教
研究者番号：50737484

(3) 連携研究者

該当なし

(4) 研究協力者 (50 音順)

赤塚 永貴 (AKATSUKA, Eiki)
井上 彩乃 (INOUE, Ayano)
今松 友紀 (IMAMATSU, Yuki)
岡本 双美子 (OKAMOTO, Fumiko)
鹿瀬島 岳彦 (KASEJIMA, Takehiko)
紅林 奈津美 (KUREBAYASHI, Natsumi)
国井 由生子 (KUNII, Yuuko)
塩田 藍 (SHIODA, Ai)
瀬戸 佳苗 (SETO, Kanae)
田口 (袴田) 理恵
(TAGUCHI(HAKAMADA), Rie)
平田 優奈 (HIRATA, Yuuna)
宮下 智葉 (MIYASITA, Tomoha)
山本 則子 (YAMAMOTO, Noriko)